

紀要

愛知大学
国際問題研究所

JOURNAL OF INTERNATIONAL AFFAIRS

Institute of International Affairs
Aichi University

No.154 October 2019

CONTENTS

Articles

Slogans, Poetry and Platitudes in Japan's Travel Media: Function of Stereotype in the "Chikyu-No-Arukikata" Guidebook Series IWATA Shinsuke

"Border Region" Studies and the Kinmen Islands SATO Motohiko

Resource

About Memoirs of Usui Senmatsu MATSUSHITA Sachiko

Records

The World of Tom Staunton from the Macartney Embassy of 1792-4 to the Treaty of NANJING 1842

An exhibition-in-the-making of photographs and maps for the Gothic Library at the Staunton Country Park (possibly a travelling-exhibition-to-be) John HAMILTON

Report on 2018 EWC/EWCA International Conference

..... HOSHINO Yasuo

Translation

Albrecht Lehmann, Zur volkstkundlichen Vereinsforschung. Translation by Shin Kono KONO Shin

論説

Slogans, Poetry and Platitudes in Japan's Travel Media: Function of Stereotype in the "Chikyu-No-Arukikata" Guidebook Series 岩田 晋典 1

「境界地域」研究と金門島 佐藤 元彦 23

資料

白井仙松回想録について 松下佐知子 51

記録

The World of Tom Staunton from the Macartney Embassy of 1792-4 to the Treaty of NANJING 1842
An exhibition-in-the-making of photographs and maps for the Gothic Library at the Staunton Country Park (possibly a travelling-exhibition-to-be) ジョン・ハミルトン 61

2018年 EWC/EWCA 国際会議の参加記録

..... 星野 靖雄 71

翻訳

アルブレヒト・レーマン ドイツ社会とクラブ・組合
——民俗学の視点から—— 河野 真 85

〈記録〉

2018年EWC／EWCA 国際会議の参加記録

星野 靖雄

2018年EWC⁽¹⁾／EWCA⁽²⁾国際会議⁽³⁾は韓国のソウルで2018年8月23-25日に開催された。その前日8月22日にEWCAの48チャプターのリーダーのためのワークショップがあり、筆者も東京チャプターのリーダーとして参加した。この会議には、2010年に名古屋チャプターリーダーとして参加し、その前には2004年に日本で開催され、筑波大学博士課程の指導学生との共著論文3件を共同発表した⁽⁴⁾。

ワークショップにはEWCやEWCAのボードメンバーや米国とアジア太平洋にある48チャプターのリーダーが40数名参加していた。日本の4チャプターからは、沖縄チャプターリーダーの仲地清 名桜大学名誉教授、関西チャプターリーダーの新田文輝 吉備国際大学名誉教授と当方の3名で、名古屋チャプターリーダーだけは欠席であった。参加者は席順で機械的に3グループに分けられた。当方は仲地さんと同じ第2グループの7人で議題を討論しDana Cadyさんが提案と概要をまとめ全体で発表した。その内容を文書化したものをAppendix1で添付する。

(1) EWCはThe East West Centerの略で、米国とアジア太平洋の人々と国家のより良い関係と理解を促進することがミッションである。1960年に米国議会により設立され、独立した、公的な非営利組織であり、米国政府、個人のエイジェンシー、個人、財団、企業、地域の政府より資金を受ける。(2018年会計年度収入2890万ドル) <https://www.eastwestcenter.org/publications/east-west-center-annual-report-2017-18>

18人の国際的なボードメンバーにより統治され、日本のサントリー社長新浪剛史氏はその一人である。会長はRichard R. Vuylsteke博士であり、研究、教育、開発等を行う。

(2) EWCAはEast West Center Associationの略で、East West Centerに関連した学生、学者、専門家等の166か国65,000人の国際的なネットワークで、12人の国際的な執行ボードメンバーがおり、日本からは沖縄キリスト教学院大学の山里恵子名誉教授がメンバーである。

(3) この会議は1980年より始められ2000年までは、ほぼ3年ごとで8回、2012年より2018年までは隔年となり9回の計17回開催された。そのうち4回はホノルル、ハワイであり東京、那覇、ロングビーチ、そしてアジアの各地であった。

<https://www.eastwestcenter.org/alumni/ewca-conferences/past-conferences>

(4) その後、査読付き学術誌に掲載され3人とも博士号を取得した。

その概要は、EWCがすべての同窓会をEWC活動の連絡の第一の拠点として認識し、大使館と同時に同窓会に情報が伝達されるようにする、特に、APLP (Asia Pacific Leadership Program) 等の新グランティーマスターについては、その情報を同窓会に確実に伝達してほしい、グランティーマスターの更新した情報を提供してほしいということを要望した。また、各チャプターの運営の実態を紹介し、役員の内任や数はチャプターにより異なっており、沖縄チャプターが新グランティーマスターに\$200を提供していることも分かった。

午後は、在韓国アメリカ大使館に招待されており、バス2台で出かけた。大使の挨拶とレセプションがあり Harry B. Harris 大使と懇談ができた。大使のご母堂は神戸生まれの日本人で、大使は横須賀生まれで、第24代アメリカ太平洋軍司令官であり、アメリカ海軍史上初の日系大将であり平時での最高の階級である⁽⁵⁾。また、新田文輝関西支部チャプターリーダーがウクレレを弾いて3曲歌われたのは印象的であった。

8月23日には、名誉実行委員長 PARK, Myung-Seok の挨拶 (代読)、共同実行委員長 KIM Won Nyon, EWCA ソウルチャプターリーダー、そして Richard R. Vuylsteke, EWC センター会長の挨拶があった。コーヒープレークの後は、3つの文化ワークショップ、1. 韓国書道、2. 韓国伝統の服装、3. 韓国の茶道のうち1つを選択して参加した。昼食後のセッションは 1A Interculturalism: Exploring Possibilities for a New Culture Beyond East and West, 1B, Smart Cities: in the Asia-Pacific Region, 同時パネルセッション1では、1.1 Keeping Up with the News, 1.2 Roles, Rights, and Responsibilities for Women and Children, 1.3 Educating Global Changemakers, 1.4 Language, Literacy, and Education, 1.5. Glimpses of Asia, 1.6 Sustainable Practices であった。1.4 の Language, Literacy and Education では、沖縄の Ishida 中学の Mayumi Miyagi 先生と Mawashi 中学の Seiko Kinjo 先生の Reading Activity for Collaboration and Communication: Developing Students' Collaborative Literacy の発表

(5) ハリー・B・ハリス・ジュニア、ウィキペディアより。 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8F%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%BB%E3%83%BB%E3%83%8F%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%BB%E3%82%B8%E3%83%A5%E3%83%8B%E3%82%A2>

Harris 大使の話は EWC の HP に掲載されている。 <https://www.eastwestcenter.org/>

があった。英語で自分の意見を発表し交流するための英文の読解力を共同で、コミュニケーションを取りながら強化する具体的な例を提供している。1.5のGlimpses of Asiaでは、関西チャプターのリーダーでもある新田文輝 吉備国際大学名誉教授によるContemporary Japan at a Crossroad to Multi-ethnic Society? の発表があった。日本での混血児が毎年約2万人ずつ増加しているが、その中でも、ハーフと呼ばれる日本人と白人や黒人との混血のモデル、パーソナリティ、マスメディアでの活躍の実態とアイデンティティーについてインタビュー調査の概要を発表した。

6:30からは、レセプションと文化交流であった。

8月24日は、午前中のセッションで2A Northern Sea Route and New Economic Map Initiative of Korean Peninsula, 2B Crossing Turbulent Waters if Financial Markets Ahead, 2C Diplomatic Roundtable in the Asia-Pacific Region: Globalization vs. Regionalismであった。この2Cのセッションは司会が、Sung Chul Yang 前駐米韓国大使、パネリストが、James Choi 在韓オーストラリア大使、Harry B. Harris 在韓米国大使、Yasumasa Nagamine (長嶺安政) 在韓日本大使、Yip Wei Kiat 在韓シンガポール大使であった。長嶺大使は在韓2年であり在米経験もあり、EWC訪問の経験もあるとのことであった。日本のグローバリゼーションについては、肯定的な日本人が多く、日本経済については、アベノミクスにより長期にわたるデフレから脱却し緩やかなインフレになっているとしている。外交政策については、インド太平洋圏における平和と繁栄を追及している。G7, G20においても、移民、貧困、災害等の諸問題を扱い、Harris大使と同様でルールベースの枠組みで解決できるとしている。

午後の同時セッション2では、2.3 Empowering Women: Strategies for the Home, Workplace and Community, 2.2 Next Generation Leadership, 2.3 Re-Proposal of the Asia Pacific Center in Okinawa, 2.4 Partnership for Youth: Shaping Community Revitalization and Sustainability, 2.5 Healthy Aging, 2.6 The Global Village Soundscape: A Nature of Cultural Encounterの6つであり、当方は2.3の沖縄でのアジアパシフィックセンターの設立の再提案に出た。セッションの議長と司会は沖縄チャプター会長の仲地清 名桜大学名誉教授であった。過去のEWCのConferenceでは

2004年の東京大会で仲地さんが沖縄での北南センターの設立提案をし、2011年の北京 Conference で沖縄の国際関係のソフトパワー、2014年の沖縄 Conference でアジアパシフィックセンターの提案をし、2016年のマニラ Conference でも沖縄でのアジアパシフィックセンターを提案し、今回で5回目となる再提案とのことであった。ハワイにおける EWC に対応して、沖縄における Asia Pacific Center の設立は十分な意義は考えられるが、この資金の調達を国にお願い実現することは多大の労力を要する。既に、日本政府が供与している沖縄への EWC 関連の学生向けの奨学金を支給している Obuchi Scholarship⁽⁶⁾があるし、沖縄には沖縄科学技術大学院大学 (OIST, Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University) がある。この大学院大学は5年一貫の博士課程を置き、教員と学生の半数以上は外国人で⁽⁷⁾教育と研究は全て英語で行う、世界最高水準の科学技術に関する研究教育を行う2012年に設立された機関である。OISTに不足している分野は、経済学、経営学、心理学等の社会科学や人文科学等であるので、これを増設する要求の方が実現の可能性がより高いと思われる。あるいは、実質的に大学と同様な役割を担うセンターの設立は、民間の資金を中心として、例えば人口過密の都市近郊でなく、大分別府に設立し成功を収めている立命館アジアパシフィック大学のような私立大学の誘致が沖縄にも可能かもしれない。このセッションでは、琉球大学の堤純一郎教授、埼玉大学の渋谷百代准教授、沖縄キリスト教大学院大学の山里恵子名誉教授、ハンガリーのブダペストビジネススクールの Judit Hidasi 教授も発表された。同じ時間帯の2.4の Partnership for Youth: Shaping Community Revitalization and Sustainability では、東京大学の三河内彰子特任助教と東大の学部生である丸川海音氏がパネリストであった。2.5の Healthy Aging では、西川敏之 駿河台大学名誉教授が、

(6) Obuchi Student Scholarship <https://www.eastwestcenter.org/education/obuchi-student-scholarship> 小淵沖縄教育研究プログラムは、NPO 沖縄語学センターで募集している。
<http://www.okilc.org/eastwestcenter> 2000年の主要国首脳会議を契機に、日米両国政府の共同プログラムとして設立され、これまでに50名位の大学生、研究者等がハワイ大学やイーストウエストセンターに派遣されたとある。

(7) <https://www.oist.jp/ja/page/about> 実際には2019年5月時点で、日本人教員比率は26%であり、日本人博士課程学生比率では13%で、博士課程学生総数167名/45か国・地域である。

Reviewing Japan's Unfinished Healthcare Reform- its Problems and Future Directionsの発表をされた。

午後の1時30分からは、半日ツアーがあり、ソウル市内のKPOPのビル、大韓仏教の曹溪宗の寺院、サムソンビルを見学した。

この日の夜には、ハワイ大学のレセプションがあり、ハワイ大学の学長・同窓生がフラダンスを披露された。

8月25日は午前セッション3で、East and West: A Delicate Balancing Act, セッション4で Collaboration Building for the Asia-Pacific Community, 同時パネルセッション3で、3.1 Culture and Performing Arts, 3.2 Meet & Great the Newest Asia Pacific Leadership Program (APLP) Cohort- Generation 18!, 3.3 Entrepreneurship in Asia, 3-4 New Approach to Education, 3-5 Science and Practice in Creating Sustainability, 3.6 Cooperation and Performance of Cultural Peaceの6つがあった。3.4のNew Approach to Educationでは、青山学院大学名誉教授でもある外池滋生ハワイ大学言語学部訪問研究者が議長／司会をされていた。3.5のScience and Practice in Creating Sustainabilityでは東京大学で研究をされているDavid Nguyenさんが Collaborative Adaptation Planning and Coastal Tourism Destinationの発表をされていた。3.6のCooperation and Performance of Cultural Peaceで、東京外国語大学のポスドクの研究員であるPurna Bahadur KarkiさんがArmed Conflict and the Peace Process in Nepalを発表された。

午後の、同時セッション4では、4.1 Diverse Arts Programming at the East West Center, 4-2 Explorations in Ethics, 4.3 Building Resiliences in Families and Communities, 4.4 Negotiating Differences, 4.5 Enhancing Cooperation, 4.6 Leadership Outreach Initiative (LOI) Information Sessionが行われた。

午後4時からのEWCA Executive Board MeetingとEWC Alumni Membership MeetingにはConference参加者全員が参加招請されて実施された。そして、6:30よりフェアウェル／アロハ バンケットと同窓生のタレントショーがあった。

日本からは、京都外国語大学講師の古橋政子さんと前述の新田先生で

あった。久しぶりにお会いしたのが、愛媛からInternational Conference 連続9回参加の村上水軍末裔の村上嘉一さんと沖縄からの照屋Fumioさんであった。

また、EWCと直接は関係ないのであるが、古橋先生の友人として吉田卓大阪学院大学外国学部長・教授が参加され、東京チャプターの会員である久米昭元 元立教大学教授やパートナーである長谷川典子北星学園大学教授、運営委員でもある外池一子さん、白田佳子 筑波学院大学客員教授の参加があった。また、APLPの関係者である小宮山理恵子 東京学芸大学客員准教授や静岡県庁の小池大慈さんにもお会いした。

この、2018国際会議への参加者数は約350人であるが、日本で研究している外国人2人を含め、日本からは32人で、5組は配偶者同伴であり、今後とも増加することが期待される。

最後に、日本における4つのチャプター間では、各種の会合情報をチャプターリーダー等を通じて相互に交換すること、スカイプでの会合の実施を検討することを話し合った。また、日本全体の4チャプターとバリの5チャプター間での会合を来年実施してほしいという提案がバリのチャプターリーダーのArianto博士よりあり検討課題である。

また、バングラデシュチャプターの活動内容がEWC / EWCAの賞を受賞されており、その発表の概要 (Appendix 2) ではコミュニティー開発について、近隣の若い大学の教員に英語を教える、災害にあった家族を助ける、貧困家庭に少額の投資をする、ボランティア組織により運営されている学校をサポートする、近隣諸国の同窓会組織と会合を持つ等の活動を実施している。社会に対するボランティア活動を同窓会で実施するのは東京チャプターでは少し先の話になるかもしれないが、最後の近隣諸国の同窓会組織との会合を実施するのは可能である。バリの話を含めて検討したいと思う。

EWC/EWCAの国際会議へは、Fulbrighterも参加資格を正式に認めており、日本EWC中部同友会と名古屋フルブライト・アソシエーションは講演会、懇親会を合同で2009年11月より実施している。同様の試みが、他の日本の3チャプターで、あるいは、他の国・地域で実施されるのを期待したい。

今回のEWC/EWCA 国際会議は2020年に60周年としてハワイで開催される。その前にハワイで開催されたのは50周年の会議であり、670名の参加者と181件の発表件数で日本からは9件であった。より多くの参加者による活発な国際会議の成功を期待したい。

参考文献

- 馬場房子、2004年EWC/EWCA国際会議の開催について、日本イースト・ウエストセンター同友会 ニュースレター第20号、pp. 1-2.
- East West Center, 2018 EWC/EWCA International Conference ABSTRACTS, 2018.
- East West Center, 2018 EWC/EWCA International Conference PROGRAM, 2018.
- East West Center, 2010 EWC/EWCA 50th Anniversary International Conference 2010.
- East West Center, 2010 EWC/EWCA 50th Anniversary International Conference 2010 ABSTRACTS.
- 星野靖雄2013、フルブライト・アソシエーションについて、愛知大学国際問題研究所紀要 Vol. 141, pp. 103-106.

Appendix 1. A Proposal of Group 2 with seven members

EWC Workshop, Wednesday 22 August 2018

Dana Cady

Group 2 Development: How chapters develop better leadership and governance?

- Refine nomination/volunteer process?
- What are the “core” leadership positions needed for success?
- Substantial committee participation?
- Are leadership term limits an issue or not?

Overall Points

Important to remember all alumni organizations are different and operate in different environments so EWC MUST get to know each chapter, its committee, and people. EWC is the umbrella for alumni groups, so...

1. Alumni organizations should be the first point of contact for EWC activities because if alumni groups are bypassed, it delegitimizes alumni organization.
2. EWC information on scholarships and activities/policies should not just go to Embassies but also to alumni groups simultaneously to leverage the deep expertise and networking connections of alumni group leadership.
3. EWC needs to update and provide accurate list serve email/contact lists so that alumni leadership can be more effective.
4. As it does with APLP, the EWC should send profiles of new EWC alumni to chapters, which could strengthen networking connections and opportunities.
5. All new EWC grantees should meet with the home chapter before they head to the EWC and afterwards present on their research and/or outcomes after end of the program to the home alumni chapter.

Organizational structure

Organizational structure of alumni groups are important but should not be mandated to one type of organization. Some aspects of structure are helpful:

- By-laws
- Templates from EWC
- Positions listed/financial structure
- Positions
 - Need to have someone involved who can get things done.
 - President/chapter leader, Secretary, Treasurer, Executive Committee Members-at-large
- Dues
 - One-time annual fee or no regular fee but contributions according to specific activities
 - Fund Raising/Scholarships
 - Ex. Okinawa chapter collects \$200 for student scholarships - identifies student, gives funds to EWC which then gives to student for attendance at EWC conference or study.

Examples of each chapter in group:

APLP

- Cohorts
- Generational reps
 - 8 of 17 Generators on board
 - 33-35 average age on board
- Call for volunteers
- Connect through social media - Important for managing info flow
 - Skype every month
 - Quarterly informational newsletter including reports of the chapter to EWCA
 - EWC staff member attends skype meetings to keep connections alive.

ASDP:

- 8 member board (Pres, VP, Sec, Tres, 3 members-at-large, past pres ex officio)
- 2 to 5 year terms depending on position

Bangladesh

- 10 member board
- 3 year terms of committee since its establishment (No change since its establishment)
- No regularly scheduled meetings but meet whenever required for specific purpose.
- Normally 4-5 members are present.

Indonesia

- Difficulty finding volunteers because younger generation have families and jobs.

Myanmar

- 7 committee members
- 4 year terms
- Elections
- difficult to contact folks.
- Meet every month 10-15 people; 40-50 alumni in country

Okinawa

- 1 term only

Tokyo

- 11 member board
- 2 year terms

The Alumni Chapters look forward to connecting more deeply with the EWC and sharing their expertise, resources, and encouragement to initiatives and opportunities.

Appendix 2. Chapter's Community Development Projects

Bangladesh Chapter Leader Dr. Abu A. M. Ekramul Ahsan

1. Teaching English to young college teachers (Eden Girls College, Dhaka).
2. Support to vulnerable rural families affected by natural calamities (flood, cyclone) for relief and rehabilitation in helping house repair, providing small funds for agricultural rehabilitation to the affected families to buy seeds and fertilizers etc. (Kurigram district)
3. Distributing warm clothing to the poor children in winter (Netrokona District, photo).
4. Support to sustainable livelihood options through small capital investment to poor families (Najma, Moushumi, Ekramul Ahsan and late Khaleda contributed).
5. Support to rural society in helping schools run by voluntary organization.
6. Meeting EWC alumni in the neighboring countries (India, Nepal, Srilanka).



写真1. 左から星野、Yang前駐米韓国大使、Lee西京大学教授、右端がBajrachryaボンド大学准教授



写真2 左より
仲地名桜大学名誉教授、Arianto博士、
星野、新田吉備国際大学名誉教



写真3. 左より Harris駐韓米国大使、星野、
Arianto博士

執筆者紹介

岩田 晋典 (国研所員)
佐藤 元彦 (国研所員)
松下 佐知子 (国研客員研究員)
ジョン・ハミルトン (国研名譽研究員)
星野 靖雄 (国研客員研究員)
河野 眞 (国研名譽研究員)

投稿原稿募集

愛知大学国際問題研究所では、次の要領に従って紀要の原稿を募集致します。

- ①投稿できるのは、研究所構成員(所員、名譽研究員、客員研究員、補助研究員)および編集委員会が依頼した人または特に認められた人となります。
- ②未発表のものに限ります。
- ③ジヤナルは論説(400字詰め原稿用紙50枚程度)・研究ノート(30枚程度)・書評(15枚程度)・資料紹介(15枚程度)などとなります。
- ④原稿はデジタル化したもの及びハードコピー2部をお送り下さい。
- ⑤投稿頂いた論説および研究ノートの原稿は編集委員会を通じて査読を行い、掲載の可決を決定致します。
- ⑥投稿頂いた原稿のご返却には応じかねます。

※投稿規程の詳細に関しては、愛知大学国際問題研究所までお問い合わせ下さい。

国研紀要編集委員会

加治宏基(編集長) 太田幸治 加納 寛 佐藤元彦 塩山正純
国際問題研究所ホームページ <http://www.aichi-u.ac.jp/aiia/>

140号より、論文の掲載について査読制度を導入しました。

本杂志対刊載論文実施匿名评审制度。

Articles on this magazine are peer reviewed.

2019年10月31日 発行

発行人

佐藤 元彦

発行所

愛知大学国際問題研究所

〒453-8777 愛知県名古屋市中村区平池町四丁目60番6

TEL.052-564-6121 FAX.052-564-6221

印刷所 株式会社 クックス

名古屋市中村区桜田町19番地20号

本誌は会員頒布制ですが、ご希望の方には1部1,500円で頒布します。